

World Cup 出場についてのレポート

「World cup を経験して分かったこと、これからの課題」 大渕 佳祐

インラインアルペン日本代表として出場した、9月10、11日に行われた **International Cup**、**World Cup** チェコ大会について報告致します。

INSA から、海野さん、山川さん、菊川さんと大渕の4名が選手として出場し、**powerslide Japan** の高井さんにコーディネーターとして同行して頂きました。

本来は9月3、4日のモスクワ大会に出場する予定でしたが、ビザ取得が間に合わず、次週のチェコ大会に延期になりました。7日に成田を出発しウィーンから車で大会会場である **Nemcicky** に移動しました。

大会前日の9日に、チェコ・ラトビアのチームとの合同練習を行いました。日本では経験したことのない練習バーンの斜度、長さ、スピード、そして選手の技術力の高さにとっても驚きました。女子選手が男子顔負けの滑りをしていたり、子供たちがスイスイと同じコースを滑り切るのには感心しました。日本より遥かに厳しいコースを小さいころから経験することで、ジュニアが自然と技術を身につけて育っていく環境を確立していることが、日本にはない一つの発見でした。

1日目の **International Cup**。前日の練習バーンよりもさらに急で長いコースに加え、初めての本格的なスタート台。完全に雰囲気や飲まれてしまって、自分の実力を出すことができず、2本とも転倒してしまいました。一番の目標であった、4本とも転ばずに完走することができず、悔しさが残りました。

2日目の **World Cup** では、1日目の反省を生かし、気持ちを落ち着かせてレースに臨むことができました。1本目は何度か危ない場面があったものの、最後まで完走。2本目は途中でストレートが連続し、スピードが出る中で深いターンを求められる難しいセットでした。転ばずに完走するのが精一杯で、自分の実力を思い知らされました。

今回の **World Cup** で一番印象に残ったことは、世界と日本の技術の差です。もちろん練習環境が違いもありますが、ターンする、スケーティングするのではなく、山まわりでの短い急激なエッジングの連続で効率的に落下していく技術。自分の目でトップ選手の滑りを見れたことはとても刺激的であったし、彼らに近づくためにはどうしたらいいか？という今後の目標を明確にすることができました。一步でも世界に近づけるように、今まで以上にインラインアルペンに取り組みたいと思います。また、東北をはじめ、日本に世界の技術を普及して、日本での全体的なレベルアップにつなげていきたいと思っています。

また、今回2連勝したラトビアのクリスタプスを始め、世界のトップ選手ほど、他の選手に声をかけていて、アスリートとしての振る舞い方を学びました。彼らの心の強さ・余裕など、これから身につけていきたいと思います。

私事になりますが、今回の遠征では自分の常識の無さを痛感しました。今回、参加しなければ気付かないことで、自分にとっては一番の経験になりました。これから社会に出るにあたり、自分の改善すべき点は改善していきたいと思います。

海野さんを始め、今回共に日本代表として戦った山川さん、菊川さん、コーディネーターの高井さん、そして合宿・サポートなどで協力頂きました INSA の方々には大変お世話になりました。ありがとうございました。

日本代表として選出して頂き、今回とても貴重な体験をさせて頂きました。この経験を生かして、今後のインラインアルペンの普及と日本のレベルアップにつなげていきたいと思えます。今後とも、ご指導のほどよろしく願いいたします。

大淵 佳祐